

## 教員がアクティブ・ラーニングを定常的に実践するための条件に関する考察

教育実践高度化専攻  
教育実践リーダーコース  
橋本 和幸

### I 問題の所在

中央教育審議会（2016）は、次期指導要領の改訂の方向性として、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善にむけた取り組みを活性化していくことが重要であると述べており、今後は子どもたちの変化等を踏まえて、教員自らが指導方法を不断に見直し改善していくことが求められている<sup>1)</sup>。

しかし、田村（2015）は、授業をする側の意識やイメージの問題を挙げて、知識注入型の授業からアクティブ・ラーニングの授業へ授業改善していく難しさについて言及している<sup>2)</sup>。

アクティブ・ラーニングの授業のかたちのひとつとして、西川（2015）が提唱している『学び合い』があり<sup>3)</sup>、篠崎ら（2016）は、「アクティブ・ラーニングの実践理論の一つに『学び合い』がある」と述べている<sup>4)</sup>。『学び合い』実践の研究として、杉山ら（2001）は、子どもたち同士の円滑なコミュニケーション活動が生起することを明らかにし<sup>5)</sup>、市川ら（2007）は、学力の向上が図られることを明らかにしている<sup>6)</sup>。

このように関係性や学力の向上が見られる一方で、継続的に実践していく上での課題に関する研究もあり、篠崎ら（2016）は、『学び合い』を定常的に実践している教員を対象として、課題意識やその解決策のフォーカスグループインタビューを行っている<sup>7)</sup>。

しかし、これまでの研究において対象とされている教員は、自ら『学び合い』の授業に取り組み、定常的に実践している教員であり、『学び合い』に興味があり、見たり聞いたりしたことはあるが、自分の授業に取り入れることに不安を感じている教員が定常的に実践するようになった要因については管見の限り明らかになっていない。

### II 研究目的

本研究は、アクティブ・ラーニングの授業に興味はあるが、導入することに対して不安を感じている教員が、アクティブ・ラーニングの授業を定常的に実践していくための条件を明らかにすることである。

### III 研究方法

#### 1. 調査対象

公立小学校教員（6名）

#### 2. 調査期間

2015年9月～2016年11月

#### 3. 分析方法

分析1 アクティブ・ラーニングの出前授業を参観した教員に対して、アクティブ・ラーニングを定常的に取り入れる場合の不安感について、アンケート調査を行う。

分析2 授業中撮影したビデオの記録、授業サポート中のICレコーダーの発話記録から、教

員が授業サポートについてよいと感じている発話の有無を調べる。

IV 結果と考察

分析1

アクティブ・ラーニングの授業を参観したことがある教員は、「毎時間の学習課題をどうつくればよいのか」「授業中に見えた気になることをどう改善すればよいのか」ということに不安を感じていることが明らかになった。

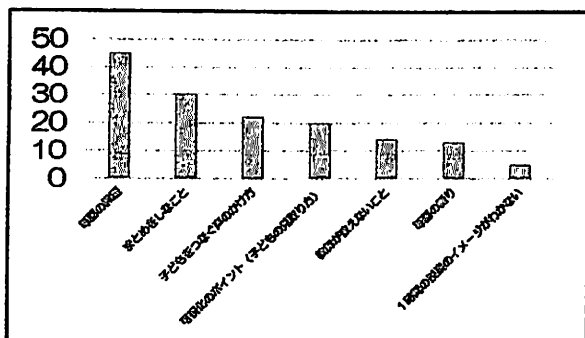


図1 教員することで不安に感じること

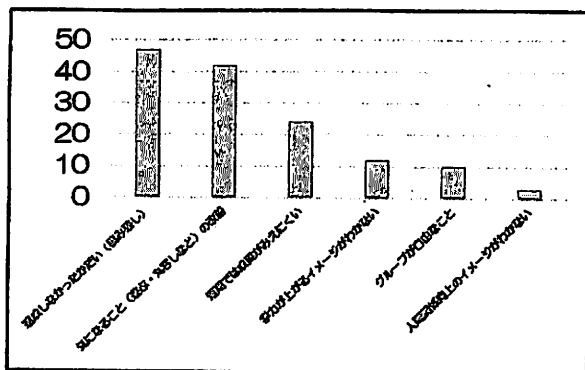


図2 子どもの姿で不安に感じること

分析2

調査者が行った授業サポートに対して、教員がよいと感じた発話を分析した結果、6名の教員がよいと感じたサポートは「教員のクラスで2時間以上授業する」「気になることの改善方法を提案する」「すぐ使える学習課題をわたす」であることが明らかになった。

表1 教員がよいと感じた授業サポート

教員	教員のクラスで2時間以上授業する	気になることの改善方法を提案する	すぐ使える学習課題をわたす	子どものよい姿を共有する	教員の発話を共有する
教員A	○	○	○		
教員B	○	○	○	○	○
教員C	○	○	○	○	○
教員D	○	○	○	○	○
教員E	○	○	○	/	/
教員F	○	○	○	/	/

V 引用・参考文献

- 1) 中央教育審議会：「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」，2016.
- 2) 田村学：「授業を磨く」，pp. 55-56，東洋館出版，2015.
- 3) 西川純：「すぐわかる！できる！アクティブ・ラーニング」，pp. 16-31，学陽書房，発行年2015.
- 4) 篠崎祐介，黒川麻実，國友芽意，岩村孝治，幸坂健太郎：「主体的・共同的な学びを支援する教師の実践理論への意識-『学び合い』実践者のフォーカスグループインタビューを通して-」，言語文化学会論集，46号，201-222，言語文化学会，2016.
- 5) 杉山清，西川純：「カウンセリング的手法を用いたコミュニケーション指導，中学校における実践を中心に」，日本教科教育学会誌，22(3)，35-44，日本教科教育学会，2001.
- 6) 市川寛，久保田善彦，西川純：「小学校算数科における自由な相互作用と学力向上に関する研究」，日本共同教育学会誌，3，10-20，日本協同教育学会，2007.
- 7) 前掲書4)

指導 西川 純